

## パネルディスカッション概要

会場参加者には、あらかじめ座席にふせんを配布、以下①～③について意見を記載していただき、随時パネルディスカッションで紹介、登壇者へ質問した。

- ① 今行っている環境に配慮した取組、今後取り組みたいこと
- ② 環境に配慮した取組について、他団体等と一緒に取り組みそうなこと、他団体どうしのユニークな取組
- ③ 基調講演・事例発表を聞いて、発表者への応援・ご意見・ご質問

ファシリテーター（敬称略、以下同）

○(株)地域計画建築研究所（アルパック） 主席研究員 黒崎晋司

パネリスト

○白馬高等学校（いずれも1年生）

- ・浦野心結
- ・岡本葵
- ・デイリー茉莉沙

○(株)レゾナック・グラフィート・ジャパンアジアビジネス統括本部大町事業所

- ・アドバイザー 稲田達也
- ・同 製造・工務部エンジ課 兼 大町事務所 SDGs 推進課 アシスタントマネージャー 村上 颯

○北アルプス森林組合 代表理事組合長 割田俊明

○大町市長 牛越徹



## 1 地域での強みや課題について

### （レゾナック）

水資源が豊富で、小冷沢を起点とした地域の水を農業用水や発電用水として利用できる水利システムがある。

一方で、里山の整備、間伐材の利用、特に地産地消があまり進んでいないように感じている。

### （森林組合）

木質チップボイラーを導入するには初期費用がかかる。行政が中心となり、ある程度使用しやすい環境を作ってもらいたい。

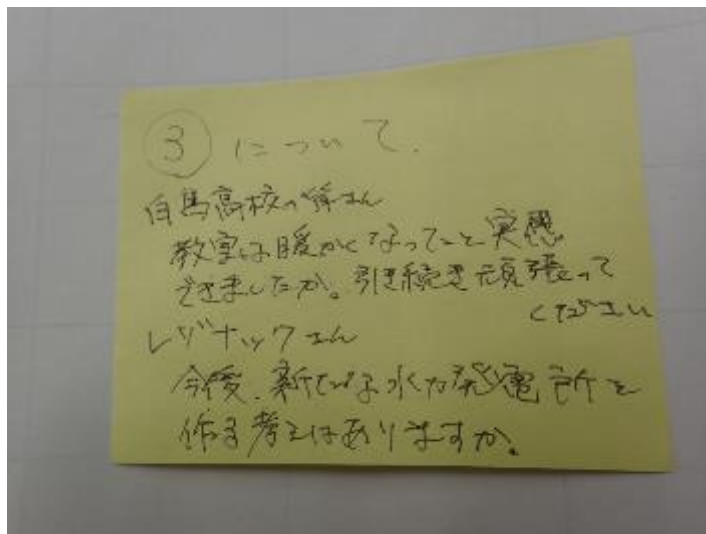
この地域は観光が強い。環境を全面的に出し、サステナブルな旅を推進してもらいたい。

### （大町市長）

農業用水や自然河川は水利権が設定されているが、漁業組合の皆様には漁業資源の保全のため一生懸命に尽くしていただいている。もちろん水利権について調整しながら水力を活用し発電していくことも重要である。

### （会場から質問）

今後、新たな水力発電所を作る考えはありますか。

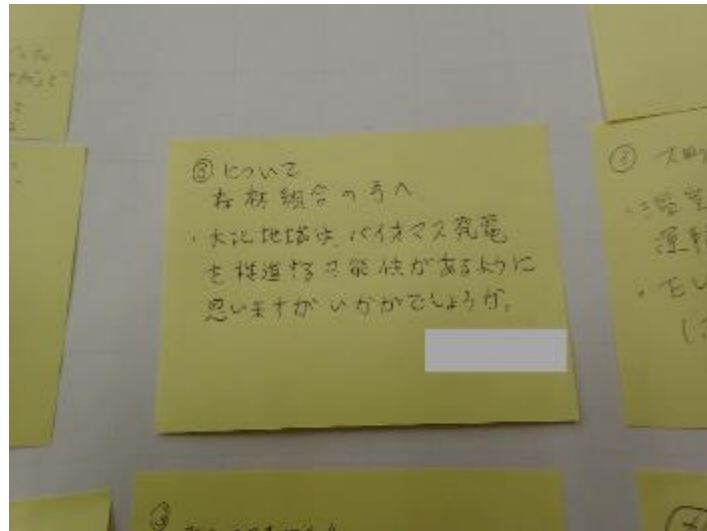


### （レゾナック）

2022 年に可能性調査した実績はあるが、地域を開発していかないと、商業用には難しいと判断した。一方で、近年は蓄電池技術も発達しており、家庭用など出力の小さいものはできるのではないかと感じている。

#### （会場から質問）

大北地域はバイオマス発電を推進する可能性があるように思いますが、いかがでしょうか。



#### （森林組合）

未利用材を使用して発電するというのが主流だが、バイオマス発電は限られた木材しか使用できない。境界や所有者不明などで、森林整備が進んでいないという現状もある。

海外から適した材を運んでくることもできるが、運搬の際の温室効果ガス排出などの観点からも地産地消が望ましい。

そうした意味で、熱利用については、松くい虫の被害にあった支障木など様々な木材が利用でき、地産地消も可能であると考えている。

#### （ファシリテーター）

バイオマス利用については、発電よりも熱として使った方が効率がいいと言われている。

地域内で資源を循環させることで、地域の経済も循環させていく、ということがポイント。

## 2 長野県の率先したゼロカーボン推進の取組について

#### （ファシリテーター）

外部からみると、県は目標を立てるだけではなく、予算編成方針にもゼロカーボン対策を組み入れて全部局で政策を進めようとしているなど、本気度が分かる。

県内の市町村でも地域の取組が始まりつつあり、大きなうねりにしていくことが大事なのではと感じている。

#### （ゼロカーボン推進室）

WWF（世界自然保護基金）ジャパンが昨年発表した調査において、本県が取組の熱心度や県民意識、再エネの取組などに対して総合評価で上位だったことは事実。

県は2030年度に6割削減という大きな目標を掲げており、国の目標でも46%削減としているが、長野県の取組はまだまだと言わざるを得ない状況。

屋根太陽光の普及率や小水力も全国で1番稼働しており、また高校生の断熱の取組や住宅メーカー・工務店の取組のおかげで断熱性能の高い住宅もどんどんできています。

県内の製造業者も地球温暖化が騒がれる前から、省エネに関してものすごく意識されている。

こうした取組を継続しつつ、着実に削減していく施策を推進していく。

#### （ファシリテーター）

県民のみなさんが、こんなに頑張っているということを実感が湧くようにPRしていくことも県や市町村の大切な役割のひとつだと考える。

### 3 将来の大北地域、将来の自分自身について

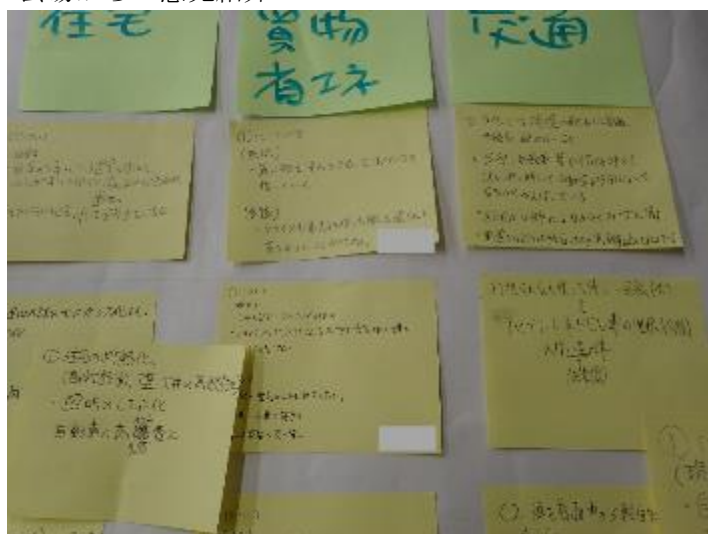
#### （白馬高校）

- ・自分だけではなく、自分の子供達が住みやすい地域になれるよう、今後も環境問題に意識を持って行動する大人になりたい。
- ・白馬で過ごして、将来都会に出ても戻ってきたいと思う地域になってほしい。  
都会にはない自然、雪がある地域のままであれば戻ってきたいと思う。
- ・環境問題とかを色々と意見を言うだけで何もしない大人にはなりたくない。  
今の自分は行動できていないけれど、文句を言うぐらいなら行動できる大人になりたい。



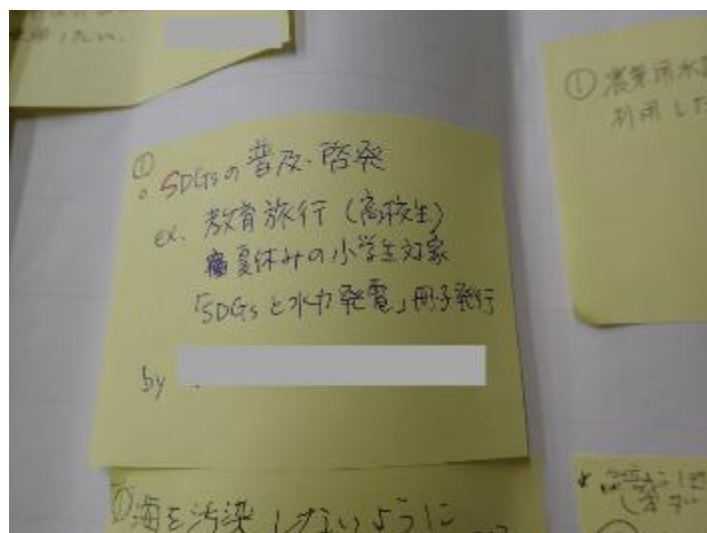
（会場からは拍手があふれた）

## 会場からの意見紹介



日頃行っている取組について、ごみの減量、食品ロスの削減、マイバッグの持参、E V車へ切替え、窓断熱化、LED 化、住宅屋根に太陽光設置 など多く意見が寄せられた。

この地域で考えられる取組として、例えば高校生に教育旅行を実施する提案もあった。



各者から、明日から自身は何をしようと思うか、また結びの一言をいただいた。

### (森林組合)

若い世代、子供達を中心になって世界運動となっていますが、特に当時アメリカが国連の気候変動枠組からの離脱を宣言した時の大統領を睨みつける環境活動家のグレタさんの顔が今でも忘れられない。今自分がこれからの子供達、孫たちのために何をすべきか、地域で何ができるかを普段から考え、行動することが大切だと思うし、私も中心になってやっていきたいと思う。

行政や県の SDGs 推進企業（森林組合も参画）が中心となって、地域住民を巻き込み、市民を巻き込んだ運動や話し合いの場を作っていくべきと考える。

SDGs 学習旅行もあり、小さいころからの教育の観点も重要。学校教育でも今以上に環境学習を取り入れ



るべき。

#### （レゾナック）

- ・これまで関わりのなかった森林業者とも関わりをもつことができて、社内の CO<sub>2</sub> 削減に取り組んでいる。もちろん弊社が排出している CO<sub>2</sub> 量は少なくなく、削減していく使命感をもっている。  
現状弊社と関わりのなかった教育や観光などの分野にも我々若い世代も含めてうまく関わり、地域に対して発信する環境づくりやマインドを持って進めていきたい。
- ・弊社はこれまで「水」で地域の皆様とつながってきた。昨年からは「木」で繋がっていかうとしている。  
白馬高校の生徒からは大人になっても自然が残っていれば戻ってきたいとあったが、そのためにも昔のような里山整備をしっかりと実施し、森が健全な状態で次の世代へと引き継がれていくことが重要と考えており、弊社もそこに参画するために調査を行っているところ。  
まずは弊社が里山整備のことを良く知った上で、地域の皆様と山に入って整備して、出てきた木は森林組合にも入ってもらい、弊社工場でも使わせてもらう、という循環ができれば人も集まってきて地域の産業が活性化すると思う。

#### （白馬高校）

- ・地域と交流の機会を増やすために、ボランティアに積極的に参加していきたい。
- ・普段の生活では公共交通機関を使う。寒かったら断熱のことも考えたり、暖かい格好をして燃料を使わないようにしたい。
- ・白馬高校でも灯油ストーブを使って CO<sub>2</sub> を排出している。少しでも減らすためにストーブを変えてみたい。また、小学校にソーラーパネルが設置されていることを知り、いいなと思ったので、帰ったら校長先生に話してみたい。

#### （ファシリテーター）

こういうことやりたいので協力してくださいと声をあげれば、会場にいらっしゃる方や地域の方、その知り合いの方が協力してくれると思う。ぜひ、自分達だけで考えるのではなく一緒にやっていく発想で進めてもらえればと思う。

#### （大町市長）

台風の大型化や局地的な豪雨などは間違いなく地球温暖化が影響していると思う。

豊かな水や自然、太陽光など地産地消のエネルギーに切り替えていく、あるいは省エネを図っていくことは、この地域の課題でもある。一人ひとりが実行し、自分ごととして考えていくことが必要。

行政の立場でいえば子供達向けの環境教育が重要。大町市は SDGs 未来都市の採択を受け、SDGs 学習旅行として 24 の教育プログラムを用意して啓発を進めている。

ゼロカーボンという目標を立てており、この実現に向かって、行政・企業、事業者や市民の皆さんとも連携して、情報を共有し進めていく。

将来世代に残す地域のことを、中心に据えて考え取り組んでいかなければならないと考える。

## (ファシリテーター)

本日のミーティングのキーワードとして、ゼロカーボンとともに「地域」があげられる。

環境省は「地域循環共生圏」を掲げ、厚生労働省では「地域共生社会」の実現を目指している。

どちらも「地域」というキーワードが入っている。

「地域」を切り口に豊かな社会、持続可能な社会をつくっていきましょう。

こうした社会を実現するために、具体的に取組を始めていくことが大切です。

## 会場参加者からの登壇者への応援など

